

令和5年度の研究推進について

R05.05.16 学友の皆さんへの説明

令和5年度の附属長野中の研究の概要

目指す生徒の姿 豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

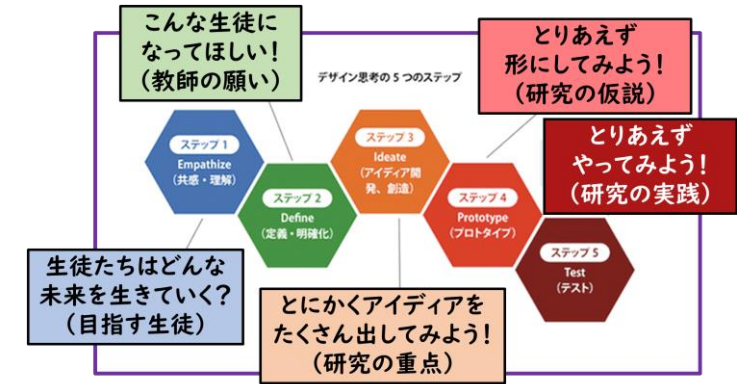
本校で育成を目指す“新たな価値を創造できる資質・能力”

「各教科等で育成を目指す資質・能力」を土台とした資質・能力

ア 問題発見・解決能力 (各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと)

イ 批判的思考力 (多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと)

ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 (自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとするなど)



【教科等の本質】 各教科等の資質・能力を身に付けていくこと

【学びの本質】 各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくこと

全校研究
テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

研究の重点1 (【教科等の本質】に迫るために)

問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする

研究の重点2 (【学びの本質】に迫るために)

現代的な諸課題に向かう中で、自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとすることができるようにする

目指す生徒の姿 豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

「新たな価値を創造できる資質・能力」が育成されている

「各教科等で育成を目指す資質・能力」を土台とした資質・能力

ア 問題発見・解決能力

(各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと)

イ 批判的思考力

(多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと)

ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、
社会に生かそうとしたりする力

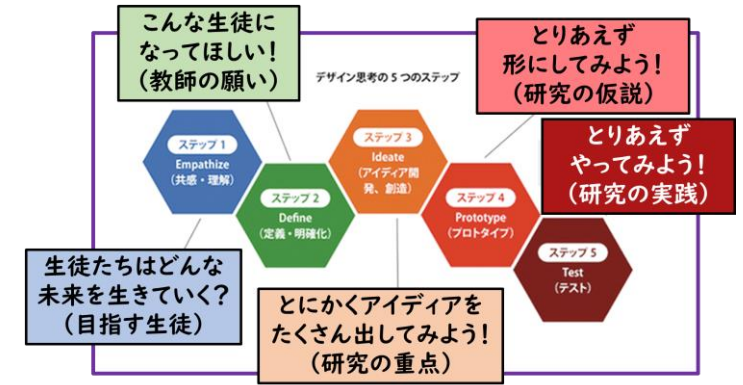
(自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、
社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする事)

	ア 問題発見・解決能力	イ 批判的思考力	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力
	各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする事
国語	互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり、適切に表現したりすること	論理的に思考する力や豊かに想像したりすることで、自分の考えを形成すること	言葉を通じて人や社会と関わり自他の存在について理解を深めることを価値として認識すること
社会	調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べること	課題（事象）を、多面的・多角的に考察し、課題（事象）の解決に向けて自分の意見や考えをまとめること	資料等を適切に用いて、自分や他者の意見や考えを発展させたり、合意形成に向かおうとしたりすること
数学	目的に応じて必要な観点を持ち、その観点から事象をモデル化すること	特定の見方・考え方に固執するのではなく、柔軟に思考し、最適解を見いだすこと	数学的に考えるよさを実感し、事象を数理的に捉えて未来を予測すること
理科	事象を観察し、抽出・整理した情報について、それらの関係性や傾向を見いだすこと	探究の過程の全体を振り返って推論したり、改善策を考えたりすること	理科の学習で得た知識及び技能を活用して、自然の事物・現象を総合的に見たり、考えたりすること
音楽	考察対象を理性的に分析したり、感覚的に捉えたりしながら、生活や社会と関連付けること 表現したいイメージを持ち、そのために必要な知識・技能を身に付け、更にイメージを更新していくこと	自分が感じ取ったよさについて、客観的な理由を基にして語れること 既習の知識・技能を生かしながら、考察対象にふさわしい表現を創意工夫すること	多様な音楽や表現の価値を認識し、音楽が社会に果たす役割を考えながら、新たな音楽文化を生み出そうとすること
美術	主題を基に対象を再度深く見つめたり、内面や本質を捉え直したりして考えること 意図に応じて様々な技能を応用したり、工夫を繰り返して自分の表現方法を見つけ出したりすること	客観的な視点を踏まえて感情にもたらす効果を理解したり、全体のイメージや文化的な視点で捉えることを理解したりすること	自分にしかない価値をつくりだし続ける意欲をもつこと 美術の表現や鑑賞に親しんだり、生活環境を美しく飾ったり構成したりするなどして、心潤う生活を創造しようとする事
保体	目的に応じた課題を発見して解決すること	既習の知識や、技能を自己や仲間の課題に応じて学習場面に適用したり、応用したりすること	運動が有する特性や魅力に応じて、自主的にその楽しさや喜びを味わおうとすること
技術	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、実践を通じて課題を解決すること	多様な側面や場面、複数の立場から判断し、最適化して考えること	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする事
家庭	見出した課題に対して具体的な実践を行い、考察したことを根拠や理由を明確にして表現すること	課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案すること	生活をよりよくするために身に付けた力を生かし、実践しようとする事
英語	必要な情報や表現を捉えること	得られた情報や表現を、選択したり吟味したりすること	国際的視野に立って、相手に配慮をしながら社会に向けて自分の考えを発信すること
道徳	自己をみつめること	物事を広い視野から多面的・多角的に考えること	人間としての生き方についての考えを深めること
総合	日常生活や社会に目を向けて、そこから湧き上がってくる疑問や関心に基いて自ら課題を見つけ、探求のプロセスを繰り返しながら豊かに学習すること	課題に対して、多様な角度から俯瞰して捉えながら、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目前の具体的な課題に粘り強く対処し、解決しようとする事	探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自己の生き方を考え、積極的に社会に参画しようとする事
特活	生活上の課題や他者との関係の中で生じる課題を見だし、その解決のために話し合い、決まったことを実践し、さらに実践したことを振り返って次の課題解決に向かうといった一連の活動を進めること	同調圧力に流されることなく、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張したり、異なる意見や意思をもとに、様々な解決の方法を模索し、問題を多面的・多角的に考えたりして、取り組むべき課題や解決方法について合意形成すること	多様な集団に所属し、その中でよりよい人間関係を形成しようとする事、よりよい集団や社会を構築しようとする事、自己実現を図ろうとする事

令和5年度の附属長野中の研究の概要

目指す生徒の姿 豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

本校で育成を目指す“新たな価値を創造できる資質・能力”
「各教科等で育成を目指す資質・能力」を土台とした資質・能力
ア 問題発見・解決能力 (各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと)
イ 批判的思考力 (多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと)
ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 (自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとするなど)



【教科等の本質】 各教科等の資質・能力を身に付けていくこと
【学びの本質】 各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくこと

全校研究テーマ 「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

研究の重点1 (【教科等の本質】に迫るために)
問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする
研究の重点2 (【学びの本質】に迫るために)
現代的な諸課題に向かう中で、自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとすることができるようにする

目指す生徒の姿 豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために…
2つの“新しい学び”を創造する！

あさひのユニット

【教科横断型の授業】

社会・数学、音楽・英語など
複数教科による学び
(教科の枠にとらわれない学び)

年3回実施

(5・9・2月に実施予定)

あさひのプロジェクト

【社会参画型の授業】

総合的な学習の時間を
基盤とした探究的な学び
(外部との連携を含む学び)

通年で実施

(長期休み前後に成果発表会を実施)

【内容】 複数教科が教科の枠にとらわれない学習を実践
(例) 国語・社会で、小説や映画を通じて歴史的な出来事を学ぶ

- 令和5年度は、5・9・2月の3回実施予定
→ 学習の進度が大きく異なる可能性がある (単元の入れ替え等)
- 学習内容は、組み合わせる教科などによって異なる
→ 発展的な内容を含む可能性がある (教科書の範囲外も含む)
- 学習範囲に左右されないよう、年間テスト範囲を設定
- 「あさひのユニット」の学びは教科の評価には反映しない
→ 「あさひのユニット」という教科で評価する

【内容】 地域や実社会と関わり、社会の一員としての自覚や将来への見通しをもてるような探究的な学びを実践
(例) 電車利用者を増やすために無人駅をデザインする

- ・ 生徒の追究テーマを基に、チームに分かれた活動を実施
→ 【令和5年度】 3年生のみの活動、12月に2年生へ引き継ぎ
成果発表会の実施 (8・12・3月の年3回を予定)
→ 【令和6年度以降】 異学年の縦割りによる活動を実施予定
- ・ 外部の企業などと連携した活動の充実
→ 校外学習の機会が多くなる (オンラインによる活動も含む)
- ・ 活動時間確保のために 「探究の日」 を設定 ※弁当持参
(5/31, 6/21, 9/6, 9/20, 11/1, 11/22, 12/13, 1/24 計8回を予定)

令和5年度の研究の推進計画

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事等	入学式 生活オリ 学友総会	1年宿舎行事	教育実習I	H. W. 3年宿舎行事	教育実習I	秋公開 2年宿舎行事	学習発表会 教育実習II 信州RT	学友会選挙 関音研	学友総会	連合教科 研究会		送別音楽会 学友総会 卒業式
あさひのユニット (プル・アプローチ) 【計30時間程度】		授業公開 ① (テーマ)				授業公開 ② (教科横断・STEAM)					授業公開 ③ (教科横断)	
総合3学年 【計30時間】 あさひのプロジェクト (プッシュ・アプローチ) 【計20時間】	<p style="text-align: center;">これからの社会を生きる私【50時間】 ※あさひのプロジェクト(探究の日)を含む</p>											
				成果発表会① (3年中間報告)				成果発表会② (3年最終報告)			成果発表会③ (2年最終報告)	
総合2学年 【計50時間】 あさひのプロジェクト (プッシュ・アプローチ) 【計20時間】	<p style="text-align: center;">私の14歳の問い【35時間】 ※あさひのプロジェクト(探究の日)を含む</p>					<p style="text-align: center;">これからの社会を生きる私【35時間】 ※あさひのプロジェクト(探究の日)を含む</p>						
				成果発表会① (3年中間報告)				成果発表会② (3年最終報告)			成果発表会③ (2年最終報告)	
総合1学年 【計50時間】	<p style="text-align: center;">持続可能な社会の実現に向けて【30時間】 ※あさひのプロジェクト(探究の日)を含む</p>						<p style="text-align: center;">はじめての一步を踏み出す私【20時間】 ※あさひのプロジェクト(探究の日)を含む</p>					
								成果発表会② (3年最終報告)			成果発表会③ (2年最終報告)	

あさひのユニット（5月）について

R05.05.16 3学年の皆さんへの説明

【内容】 1つのテーマに関する授業を実施

【テーマ】 **新型コロナウイルスと人類**

【対象学級】 3学年（A～E組）

【実施時期】

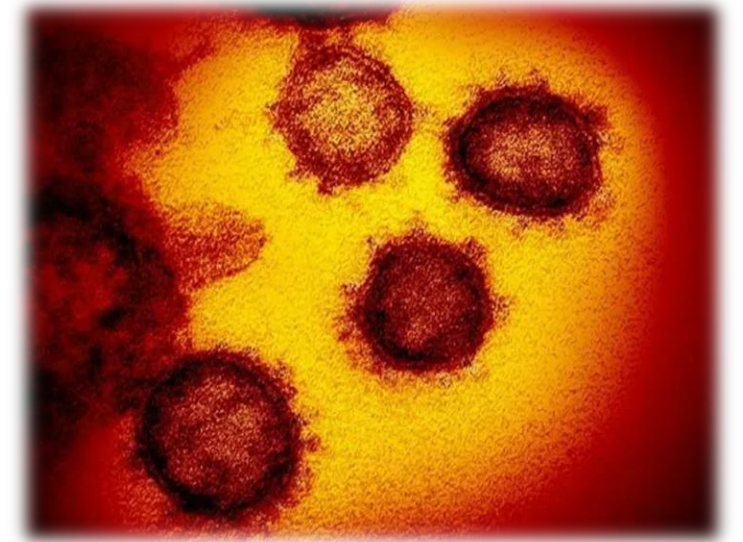
5 / 16（水） テーマに対する問いを決め出す

5 / 17（木）～30（木） 各教科でテーマに関する授業を実施

5 / 31（水） テーマに対する問いの答えをまとめる

【評価】 Classroomで配付されたスライドを編集する

完成したスライドを課題として提出する（6 / 2まで）



【教科横断型】あさひのユニット（5月）について

5/16に入力する
<p>テーマに対する問い</p> <p style="text-align: right;">3年*組*番 附属 太郎</p> <hr/> <p>【テーマ】新型コロナウイルスと人類</p> <p>【問い】追究したいこと、疑問に思うこと、など</p> <p>【理由】</p>



5/31に入力する
<p>テーマに対する問いに対する答え</p> <p style="text-align: right;">3年*組*番 附属 太郎</p> <hr/> <p>【問い】</p> <p>【問いに対する答え】図などを用いてもよい</p>

5 / 1 6 ユニットはじめ
(決め出した問いとその理由)

5 / 3 1 ユニットまとめ
(問いに対する答えと理由)

「あさひのユニット」として評価（教科の評価はしない）